

唐園藝術群 企画展示

『赤澤ハツエの捨てられなかった物展』が

私たちに遺したもの

「捨てられなかった物」が教えてくれた未来



嫁入り道具の重箱

私たちは、物を捨てられないのではありません。その物と共に暮らした時間や、思い出、手ざわりや匂い、家族と過ごした五感の記憶を失うことが怖いのかもしれません。

90歳の「捨てられなかった物」は、昭和の暮らしを思い出させる展示だけではなく、私たち自身の人生を見つめ直す展示でもありました。そして今を生き、未来を思い描く展示でした。

どうのそげいじゅつむら
唐園藝術群
げいじゅつむら新聞

第23号 特別号
唐園藝術群 発行
群長：赤澤貴子

唐園藝術群として、「藝とは、結果ではなく育みの時間」という理念から更に問いを重ね、「目に見えない時間や記憶、五感の暮らしを表現する」藝術展でした。

唐園藝術群は 人が生きてきた時間を 未来へ受け継ぐ場所

作品を展示するだけの場所ではなく、人が生きてきた時間や、見えない記憶、五感で感じる暮らしを藝術として未来へ受け継ぐ場所でありたいと考えています。人も、物も、建物も、そこには誰かが生きた時間があります。私たちは、それを未来へつなぐ活動を続けていきます。

「捨てられない物」は 人生の記憶そのもの

この展示は終わりました。しかし、「あなたの捨てられない物は何ですか？」という問いは、これからも一人ひとりの心の中で続いていきます。

唐園藝術群は、目に見える作品だけでなく、目に見えない人生や記憶、暮らしの文化を未来へ受け継ぐ藝術を、これからも育てていきます。

あなたの捨てられない物は なんですか？

「かつての問い」に、捨てたい物として、思い込み、人と比較すること、背負ったままの役割、執着、昭和の常識などの感想もありました。単に捨てられなかった物を展示したのではなく、その物の中に宿っていた「人が生きた時間」を展示しました。そしてその時間は、来場された方々の人生とも静かにつながっていました。



昭和44年頃

フォーカス徳島で放送されました

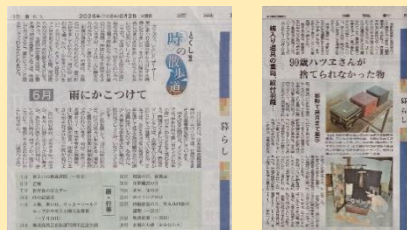


「90歳が捨てられなかった物展」
四国放送
6月22日(月)放送

放送動画はこちら →



徳島新聞に掲載されました



6月2日(火) 5月28日(木)

唐園藝術群 企画展
『赤澤ハツエの捨てられなかった物展』



うさぎの眼

鬼たかこ

「捨てられなかった物」は、過去を懐かしむためだけに残されていたのではありませんでした。一つひとつに、誰かが大切に生きてきた時間が宿っていました。展示は終わりました。けれど、その時間は訪れてくださった皆さんの心の中で、新しい未来を育み始めています。藝術とは、作品を残すことではなく、人が生きた時間を未来へ手渡すこと。私たちは、その文化をこれからも育てていきます。



活動写真
Instagram



藝術群
ホームページ



放送動画
(四国放送)

